荒尾市立府本小学校　校長便り　№１４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和７年５月３０日(金)

子ども達に伝えてきたこと

「ＴＰＯをわきまえる」という言葉を聞いたことがあることと思います。ＴＰＯすなわち、Time（時間）、Place（場所）、Occasion（場合。Opportunity と使われることもある。）の頭文字をとって、時と場所、場合に応じた方法・態度・服装等の使い分けを意味する言葉です。

学校という場所は公的な場所ですので、それに応じたＴＰＯがあります。先生方に対する言葉遣い、友達同士での立ち居振る舞い、特別教室の使い方等がそうです。学校は社会的、公的な場所ですからそれができなければなりません。

これらの中で時々気になるのは、先生方に対する挨拶や言葉遣いです。目上の人に対する挨拶、言葉遣いがきちんとできるということは、将来の子ども達にとても有益です。挨拶が気持ちよくできるということは第一印象が違いますし、教師の経験則として、挨拶や言葉遣いがきちんとできる子達は、多くの場面でプラスの効果を得ているような気がします。

併せて、最近は相手によって態度を変える子も多いような気がしています。「相手によって態度を変える」という行為は、人としてはどうでしょうか。この様な行為は差別ととることもできます。言動の背景を考えれば自明なことです。私は子ども達と話すときに、休み時間であっても給食時間であっても、楽しい場面であっても、大人である私に対しての言葉遣いは、その場で指導するようにしています。府本小学校の子ども達はその都度、正しい言葉遣いに変えてくれて、その度に笑顔が生まれます。私達大人が正しい、美しい言動を心がけて普段の生活を心がけていかなければなりませんね。

因果応報という話

運動会も終わり、季節としては少しジメジメした季節に入ってきました。こんな時は、しっとりと読書なども良いかもしれません。私は毎日寝る前に１０分間読書をするのですが、その中で「因果応報」という言葉が目につきました。意味を再確認したところ、「過去および前世の行為の善悪に応じて現在の幸・不幸の果報があり、現在の行為に応じて未来の果報が生ずること。」とありました。自分のこれまでの言動が今の自分（人生）を作ってきたのだという意味に捉えました。確かにそうだと思います。私自身、これまで多くのうまくいかないことを経験してきました。最近に思うのですが、うまくいかないときに限ってその原因を自分以外のところに見出そうとしていました。責任の矛先が自分に向かない訳です。するとどういうことが起きるか？私の場合、普段の生活の中で愚痴や不平不満を頻繁に口にし、周りの人を不快にさせていました。それで事態が好転するはずがありません。

私の経験では、不平不満や愚痴を続ける人達の負のスパイラルは永遠のループとして続き、最終的に仕事にやり甲斐を感じられず、疲弊してリタイヤしていきます。私自身がそのような時期を経験したからこそ、思うことです。責任や原因を自分に見出すことは年齢を重ねることに難しくなるものですが、今の時代、年齢に関係なく自分自身をアップデートしていかなければ社会の動きについていくことはできません。だからこそ、自分自身を振り返り、現状を生み出した原因は何なのかを、先ずは自分に照らして考えるべきではないかと感じています。

シリーズ「自分を語る」#１４

６年生ともなると、色々な事に興味をもち始めます。私が５年生から６年生に進級する頃が芸能界にすごく活気があった時期で、最も印象に残っているのは山口百恵さんとか西城秀樹さんとか、更に人気絶頂にあったのはピンクレディーでしょうか。私も６年生の頃のお楽しみ会で、「ＵＦＯ」を男２人で歌ったことを思い出します。皆が楽しむ姿を見ることが好きだったようです。思春期の入り口のこの時期、友だちは異性が気になり始めた様子で、周りがそういう雰囲気になっていって自分も巻き込まれていった時期です。（ちなみに、私の初恋？は中２の頃でした。）修学旅行と運動会がそのきっかけだったと思います。おぼろげな記憶ですが、修学旅行の時、担任の先生に女の子と一緒に写真を撮ってもらいましたし、運動会では応援団に参加することで男女が急速にお互いを意識するようになったようでした。楽しい小学生時代を送った私ですが、少しずつ漠然とした将来が見え隠れし、不安感も首をもたげた時代でもあります。

そんな中に、将来の夢についても考え始めた時期でもあります。私の子どもの頃の夢の一つ、それはパイロットになることでした。例年、自宅近くの陸上自衛隊第８師団の記念のイベントで、自衛隊のＦ１５戦闘機が飛んでくるのですが、戦闘機はあっという間に通過、みんなため息をついていました。最近は飛んできません、残念！

平成２９年、熊本城復興祈念のイベントで、熊本城上空に航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」が飛来しました。私はたまたまその時、藤園中学校運動場で息子達の野球の試合を見ていて、間近で見ることができました。平成１９年も、築城四百年記念で飛んできましたね。とにかく言葉にならないほど感動しました。憧れというか夢のシンボルというか、小さい頃はパイロットとかに憧れる時がありませんか？　５０歳を超えても同じ気持ちが沸いてくるのですから、子ども達は尚更だと思います。

自衛隊や航空会社のパイロットは、勉強はもちろん出来なくてはなりませんし、体力的にもトップアスリート並みのそれが必要です。健康にも留意しなければなりません。物事を瞬時に判断する判断力も必要になってくるでしょう。英語をはじめとする語学力も必要です。そういったことをクリアした者が舞台に立てるのです。なぜそれが出来るのか、理由は一つしかありません。夢を持ち続けて努力することです。夢を持ち続け、努力の継続ができたから、達成できたのです。努力だけではどうにもならない部分はあるかもしれませんが、最後の最後まで諦めず、後悔しないようにがんばりたいものです。子ども達も多くの夢を持ち、それに向かって努力を惜しまないでいてほしいです。良い方法として、目標から逆算して、いつ何をするのか？　何をスタートさせるべきなのか？　いつまでに成功させるのか？　等を、「夢の計画書」、「未来予想図」として書くと良いかもしれません。より夢が具体的になってくると思います。すっかり堅い話になってしまいましたねぇ。次はどんな話をしましょうか…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）